

とんな子みっけ!

2学期がはじまっていよいよ運動会!というところで、秋雨前線と台風に悩まされ、思うように活動できなかった9月。それでも、本番は待ってくれないので、ホールとすみれルーム・れんげ組を開けたり区切ったりしながら、学年ごとに交代して使って、やっとここまで来ました。いよいよ運動会です。

穴川花園幼稚園の運動会は、毎年、学年で活動していることや、子どもたちが今、興味を持っていることを組み合わせ、オリジナル競技を作っています。それは、“上手にできる”とか、“失敗しない”ためにひたすら反復練習したり、先生の笛や号令で子どもたちを動かす、運動会の為だけの活動ではないからです。楽しんで取り組みながら、お友だちと競争したり、力を合わせたり、子どもたちの中にある“去年の年中さん・年長さんみたいになりたい!”と、目標をもってがんばっている姿を、ちゃんとお家の方に感じていただけるような運動会を目指しているからです。



そこで、運動会当日まで楽しく活動出来るように、お手紙や大きな小包が届いたり、先生が仕掛け人になって、役者さんのように演技したりして、子どもたちがその気になっちゃうアプローチをしながら、毎日コツコツ取り組んでいます。こうして、運動会に向けて取り組んで

いく中で、先日驚きの姿をみせてくれました。開会式の練習を行った時のこと。連休明けの月曜日なので、子どもたちも落ち着かないだろうと思っていましたし、初めてだから年少組は1列に並ぶことも難しいだろう、だんだん上手になっていけばいいなと思っていました。するとどうでしょう。年少さんもちゃんと1列に並んで、見よう見まねで一斉懸命体操したり、マイクの声にしっかり反応して、立派な姿を見せてくれたのです。(おさんぽタイムで見学していた保護者の方からも、「本当に初めてなんですか?練習しなくてもこんなに上手に出来るんですね。」と驚いていらっしゃいました。)



子どもたちは本来、音楽などで習慣づけたり、〇〇をしましょうと指示を繰り返すこと

で、だいたいのは出来るようになるものです。でも、先生やお友だちと一緒にいろいろな活動する中で、楽しいことも、難しいことも、大変なことも、みんなで乗り越えながら、十分に楽しみや喜びを感じて育つ。そうすることで、いざという時にきちんと集中して取り組める子どもたちになるのだと思います。“やりたい!”“頑張りたい!”“かっこいいところをみせたい!”と心を動かして、取り組むことこそが大切。その為に、大人は精いっぱい!応援しましょう。

とんな



「とんな」は、ようちえんで起こる
とんなとき・とんなこと・こ～んなにを
折々お届けします。

〇〇になりきって!

「ば～」「べ～」「ヴ～」手をぶらぶらさせながら、なんだか不気味な仕草の年少組。なにかと思ったら・・・オバケでした。園舎のあちこちに出現してお友だちや先生を驚かせようと、オバケになりきっています。「きやあ～助けて～」なんて、リアクションが帰ってくれば、どんどんエキサイトして、気が付けばオバケ顔が急接近!

こんな風に、周りを気にせず、何かになりきれるのは、年少組ならではの。もう少しすれば、恥ずかしい!そんなのかっこわるい!なんていいだしますから・・・。

自由な発想や自己表現が出来るようになるために欠かせない「なりきり」の体験なのです。今のうちにおもいきりなりきれ!



うんどうかいでは、マ
リオにもなっちゃうよ!



ランナーを伸ばしたイチゴの苗は、全部で20鉢になりました。



仲間増殖中！

1学期のおわりに、牛乳パックやプリンカップを植木鉢替わりにしてそばに置いておくと・・・手（ランナー）を伸ばして、どんどん仲間を増やしていったイチゴちゃん。

2学期に入り、“そろそろ広いところにお引越しさせよう”と話し合っ、園庭のニコニコ畑に移植することにしました。すると「かわいそうだね。」という声が聞こえてきました。引っ越しをさせるには、ランナーを切り離さなくてはならないことに気付いたのです。“手を伸ばすとお友だちがいる！仲間が増える！”ことを、イチゴの成長と、自分たちの体験とを重ねながら育ててきた年中組ですから、イチゴちゃんの身になって考えると、かわいそうになったのでしょうか。「でもお引越しさせたら、もっと仲間が増えるかもよ」という声に安心して、みんなで引越しさせました。

「ぼくたちがいつも観に行っておあげよう！」とか「寒くなったら、ココアを届けてあげよう！？」などなど、人の身になって考えたり、自分ができることをしようとする心が育っているようです。



勝つためには・・・！

登園すると、「今日もリレーやろう！」「先生、線書いてね！」「バトン貸してください！」など、段取りよく準備をして、意気込みいっぱいの年長組。運動会に向けて、クラス対抗リレーをやって行くうちに、1位をとることを目指して、それぞれ頑張っている真っ最中です。



そんな中、なかなか1位になれないクラスもできます。すると「1位じゃなくてもいい」「がんばったから3位でもいい」と負け惜しみの声が聞こえて来るのです。その悔しくて、でもどうしようもない思いを汲んで先生は提案をします。

「1位をとる方法はないのかしら？」そんな話し合いの時間をもつと、お家の方に相談したり、体操の先生に聞いたりして、いろいろな案が出て来ました。「最初の方に速い人が走るといいって！」とか、「線の近くを走るといい」とか、「バトンを、『ハイ！』ってちゃんと渡す」とか・・・。すると、負け惜しみの子も、本当は“1位になりたい！”という思いを素直に発揮して、一生懸命試みます。時には線すれすれを意識し過ぎてバランスを崩す・・・なんてこともあります、とにかく、勝つための技や前向きに取り組む思いも磨いて、取り組んでいます。



バトンパスが大事なことに気付いた年長組。声を掛けあって、一生懸命です。

子どもたちからのバトンをそのまま受け取って走る、担任の先生に「先生が遅いせいだ～」なんて、もう言わせないぞ！